

黙示録17章：大淫婦バビロン

「世」からの救い：「キリストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のためにご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみことろによったのです。(ガラテヤ 1:4)」

「世」とは？ → 神に対抗し、反抗する、人間が作った代替の制度。

例：政治(13章)、商業(18章)、そして宗教(17章)

1-6節：女の姿

「大水の上に座っている」これは 15 節、「あなたが見た水、すなわち淫婦がすわっている所は、もろもろの民族、群集、国民、国語です。」世界中のすべての人に影響を与えている。

「地の王たちは」国や政治が深く関わっている。

「緋色の獣」これは、反キリストである。

「また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口はししの口のようにであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。(黙示 13:1-2)」

「紫と緋の衣、金と宝石と真珠」紫：国々の上に立つ王のような存在。

金、宝石、真珠：巨額の金を持っている。

「憎むべきものや自分の不品行の汚れでいっぱいになった金の杯」：偶像礼拝と不道德な行ない

「意味の秘められた名」聖書の中で「秘められた」とあつたら、それは、「昔は隠されていたが、今、明らかにされる」という意味がある。→ つまり昔からあつた存在。

「すべての淫婦と地の憎むべきものとの母、大バビロン」

とても単純で純粋な福音：

1. 神が世界を造られ、人を造り、人と交わることをお考えになった。
 2. 人が罪を犯して、神から離れてしまった。
 3. 代わりに犠牲の血をキリストが流すことによって、人の罪を神がお赦しになった。
 4. キリストによって神に近づく者を、神は受け入れてくださった。
- 1)ところが、アダムとエバは、罪を犯した後に、裸をいちじくの木の子葉で覆おうとした(創世記 3:7)。自分の力で自分を贖おう、自分を救おうとする努力 → 宗教の始まり
- 2)ノアの時代の洪水の後、ニムロデという人が権力者となり、町々を征服していった。
「クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の権力者となった。彼は主のおかげで、力ある獵師になったので、『主のおかげで、力ある獵師ニムロデのようだ。』と言われるようになった。彼の王国の初めは、バベル、エレク、アカデであつて、みな、シヌアルの地にあつた。(創世 10:8-10)」
- 3)人々は、神の命令に逆らつて、自分たちで町を造り、自分たちで天に届こうとした。バベルの塔。
「さて、全地は一つのことば、一つの話しことばであつた。そのころ、人々は東のほうから移動して来て、シヌアルの地に平地を見つけ、そこに定住した。彼らは互いに言った。『さあ、れんがを作ってよく焼こう。』彼らは石の代わりにれんがを用い、粘土の代わりに瀝青を用いた。そのうちに彼らは言うようになった。『さあ、われ

われは町を建て、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。われわれが全地に散らされるといけないから。』(創世 11:1-4)これが偶像礼拝の始まり。

けれども、その地域に住んでいたアブラハムが、神によってそこを出て行くように命じられた。そして後に主が建てられた町が「エルサレム」である。

4)エルサレムの町を破壊したのは、バビロン王国であった。バビロンはとてつもなく大きな都であり、世界の七不思議にも入っている「空中庭園」などがあつた。都の中心に、マルドゥクの神殿があつた。

5)この偽宗教と偶像礼拝が、ヨハネの生きているローマ時代にも、そして主が再び来られる直前まで世界の人々を支配している。

中国には？ シンボル(象徴)に竜が。拝金主義。

北朝鮮？ いたるところに二人の指導者の肖像と、銅像がある。

日本？ 偶像礼拝が至る所に。東京の真中に神道の祭司、天皇が住んでいる。

聖書の中にはしばしば、神と人との関係を婚姻関係に例えられている。

イスラエル「ひとりの女(黙示 12:1)」、バビロン「大淫婦」、教会「小羊の花嫁(19:8)」

教会の中にあるバビロン(黙示録2章、テアテラの教会にいるイゼベル)

1)当時のローマは、バビロン宗教から来た偶像礼拝を行なっていた。皇帝も神になった。

2)当時のクリスチャンは、皇帝崇拝を拒んで、殉教した。

3)皇帝自身がキリスト者となった。ところが、ローマの異教をそのままキリスト教式にした。

例:クリスマス(もみの木、プレゼント交換、飲み会・・・)、イースター(卵)

マリヤ崇拝、聖人崇拝、法王無謬、あらゆるきらびやかな装飾。

今のローマに、獣に乗った女の装飾が教会の中に存在する！

4)私たちの教会(新教、福音派)にある危険

a)「教会を大きくしよう」お金をたくさん集めること、規模を大きくすることが目標になる。

b)「牧師が一番」例えば、牧師が性的な罪を犯す。

c)「他の人がやっているから・・・」一般の生活で、また教会の中で偶像礼拝や不品行を行なう。

「聖徒たちの血に酔っている」ローマ・カトリックがこれまで一番多くのクリスチャンを殺している。

→ 世といっしょになった教会が、真のクリスチャンを迫害する。

7-14節: 獣の秘儀

ここは、黙示録 13 章と、ダニエル書の知識が必要

8節

「昔いたが、今はいません」ダニエル8章と 11 章に、ギリシヤの王「アンティオコス・エピファネス」が出てくる。彼は人々をうまく騙して権力を持ち、ユダヤ人に信仰を捨てさせ、神殿の祭壇に豚をささげさせた。

「昔」ギリシヤ時代、「今」紀元 95 年ぐらい、ローマ時代

「やがて底知れぬ所から上って来ます」「底知れぬ所」は地獄の一つ(黙示 9:1)。

「そして彼らがあかしを終えると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。(黙示 11:7)」「その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、(黙示 13:3)」

「いのちの書に名を書き記されていない者」天には書物がある！

9-10節

「七人の王」あるいは王国。歴史を通じて、世界を君臨した帝国。

「五人はすでに倒れた」

聖書では、1)エジプト、2)アッシリヤ、3)バビロン、4)ペルシヤ、5)ギリシヤ

「ひとりは今おり」6)ローマ

「ほかのひとはまだ来ていない」7)復興ローマ(ローマの影響を持つ世界的共同体、ダニエル2章 41-43 節)

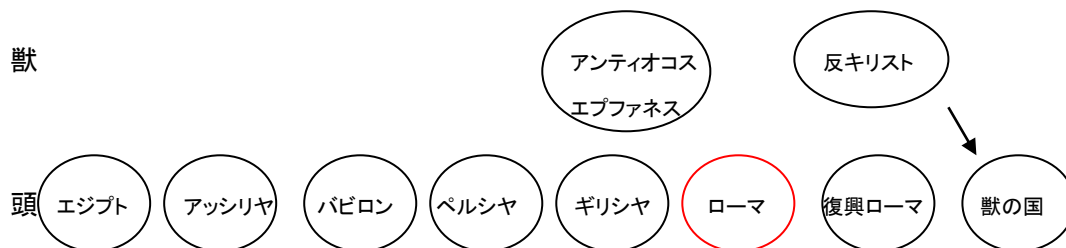
ネブカデネザルが見た夢 — 足と十本の足の指は、鉄と粘土。

11節

「八番目でもあり、七人のうちの一人」反キリストは復興ローマ(西洋)から出て、8)新たに自分を総統とする世界帝国を作る。

12-13節

「十人の王」七つ目の国、復興ローマは、世界を十の地域に区分する。それが反キリストに、自分たちの権力を委譲する。



14節

「小羊と戦います」19 章後半に詳しく出てくる。

「彼とともにいる者たち」これは携挙した教会

15-18節: バビロンの崩壊

「十本の角と、あの獣」ダニエルの第70週の7年間の半ば、反キリストは自分が神であると宣言、獣の国を造る。その時にバビロンを滅ぼす。

「神のみこころを行なう」反キリストが、自分が宗教の役目を果たすことにしたが、その行動も神の主権の中でバビロンを滅ぼすのに用いられた。

「地上の王たちを支配する大きな都」=王たちの上に王国を持つ大きな都

→ 今のところ、これは「バチカン(Vatican)」と言える。

けれども、ローマ・カトリック(天主教)だけではなく、この世と結託した教会、宗教はみなこの中に入る。

終わりの日は「世界化(globalization)」が進む。「世界政府」「世界経済(地球共同体)」そして「世

界宗教」

最後に・・・「私たちは神からの者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。
(1ヨハネ 5:19-20)」